

屋外用ホスクリーン 施工要領

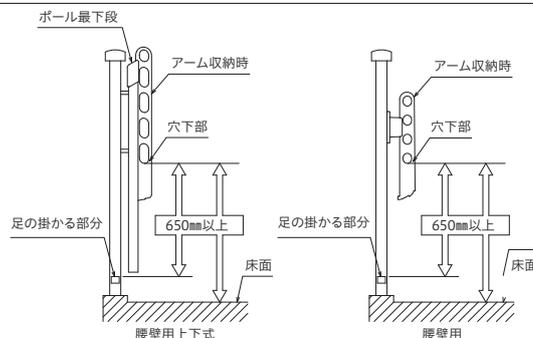
取付けは、製品の落下や事故を防ぐために建築構造を理解されている施工業者様が行ってください。製品本体が確実に取付けていることを必ず確認してください。

腰壁用上下式 LP型/EP型/EPL型/GP型/GPL型/DS2型 腰壁用 HC型/HD型

1.取付ける高さについて(安全性の確保)

ベランダの腰壁や手すりに取付けるタイプの物干は、お子様がよじ登って転落するなどの事故を避けるため、設置高さにご注意ください。特に収納時の竿の位置については注意が必要です。右図をご参照ください。

- 収納時の竿高さ650mmは最低基準です。800mm以上確保できるとより安心です。
- スライド収納式のDS2型は、竿2本とも最上部(元々の手すりレールの高さ付近)に収納されますので、もっとも安心です。
- ポールで上下するタイプ(LP型/EP型/GP型)については、取付け後でも竿の収納位置を上げることができます。



2.取付ける幅について

2本の物干を取付ける間隔については特に決まりはありませんが、取扱いのしやすさを考慮すると、1.8~2.4m程度の取付間隔をおすすめします。

※入手が容易な市販の伸縮式竿(1.7~3.0m)にマッチする取付間隔です。
当社製「竿止め金具付物干し竿」をご使用の場合の物干設置間隔については、P.91をご参照ください。
また、竿の両端が出る分だけ物干の両外側にも余裕が必要です。
(腰壁が入り隅となっている場合にはご注意ください)

3.竿止めの使用について

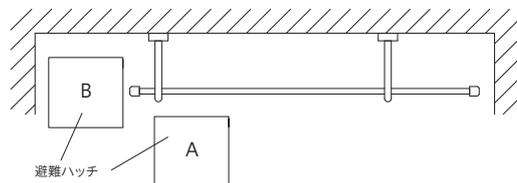
腰壁側で使用する物干は、強風にあおられるなどの万一の事故により竿が抜けてベランダ外に落下すると非常に危険です。市販の竿抜け止めまたは当社製「竿止め金具」をご使用ください。→P.91

- 物干し竿が給湯器の前面にくる場合は、給湯設備の故障や火災の原因となります。
※給湯設備周りの空間確保については、給湯設備の取付要領に従ってください。

4.集合住宅などで避難ハッチがある場合

避難ハッチ上に物干本体及び竿がかかると、避難の妨げとなる恐れがあります。

- HD-35型/EP-45型/GP-45型などの、壁からの寸出法が小さい製品をお選びください。
(避難ハッチの位置Aに対応)
- 竿が横にずれてハッチにかぶさらないよう固定したい場合には当社製「竿止め金具」が有効です。
(避難ハッチの位置Bに対応) →P.91



5.物干を3本一組で設置する場合の注意点

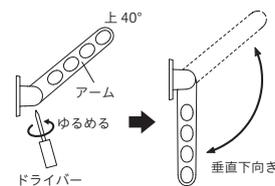
物干を真ん中にもう1本追加して取付けるケースがあるようですが(竿間隔が長いのでたるまないように...など)、そうした設置方法では製品が使いづらくなる場合があります。この場合は物干2本セットに短い竿を挿したものを2組設置の方が本来の性能を発揮でき、快適に使用できます。

窓壁用 RK型/HK型/HKY型/HKL型/EK型

1.取付ける高さについて

窓側の壁に取付ける製品です。竿が185cm程度の高さになるように設置すると、身長155cmの方でも容易に手が届きます。また、取付後も角度調整による竿の高さの変更が可能です。(EK型を除く)使う方の身長にあわせて設置する場合は、身長+30~35cmの高さを目安としてください。

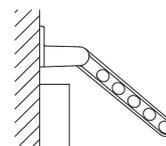
- HK型・HKY型・HKL型はアームを垂直下向きにするためには右図のように上40°にセットして、アーム下側の穴からドライバーでネジを約9回転ゆるめてください。



2.窓上に設置する場合

物干のアームを斜め下にした状態で使いやすい高さとなるサイズをお選びください。

戸袋やシャッターなどの出っ張りが大きい場合には、右図のようなロングベースタイプ(HKL型)が適しています。



3.腰壁側への設置禁止

窓壁用物干をベランダの腰壁・手すり側に取付けると、物干アームを斜め下にした場合や収納時に竿位置が低くなり、お子様がよじ登って転落するなどの危険性がありますので絶対におやめください。

屋外用ホスクリーン 施工要領

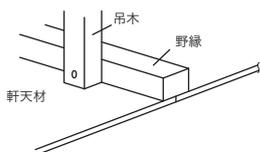
軒天用 ZA型/ZAN型/Z型

1.取付下地について

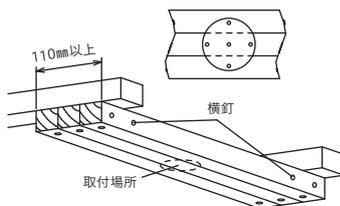
【木製野縁の場合】

- 下向きの荷重に対して吊木などで補強してください。
- ネジ止めのために必要な下地の幅は製品により異なりますので、下図を参照してください。

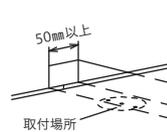
ZA・ZAN・Z型 【吊木による補強】



Z型 【野縁の幅補強例】



ZA・ZAN・Z型 【野縁1本に取付ける場合】



ネジの締め付けにより割れなどが起らない幅が必要です。



Z型での上図のような取付けの場合、横振りに弱くなりますので使用時に注意が必要です。

【軽天材の場合】 ZA型/ZAN型/Z型

- 軽天材に直接取付けることはできません。木下地を作り、【下地が木製野縁の場合】と同じ補強を行ってください。

2.取付方法について

【金属垂木の場合】 ZA型/ZAN型

- 金属垂木に取付けるためのパーツ(HP-16)を用意しています。

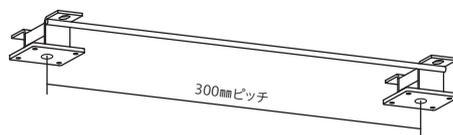
【コンクリートの場合】

天井面での強度不足による脱落の恐れがあるため、カットアンカーなどでの後付けはできません。インサートアンカーをお使いください。

- 市販のRC用インサートアンカーをご使用ください。
Z-207型/Z-215型は市販のRC用ダブルインサートアンカーへの取付けが可能です。
- Z型は市販のRC用インサートアンカーとZRC金具(P.85)をご使用ください。



インサートアンカー



ダブルインサートアンカー

軒天用 SPO型

1.ベースの取付位置について

SPO型は吊り下げたポールがフリーに可動します。

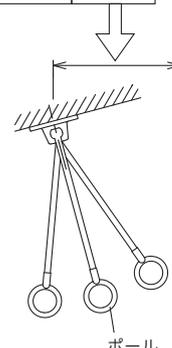
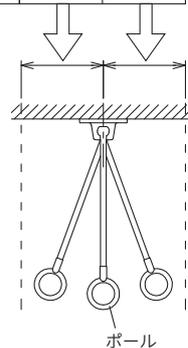
商品取付けの際は、壁面やガラス面に当たらないよう、右表の寸法以上離れた位置にお取付けください。

(特にガラスなどがあると、ポールが当たって破損する恐れがあります。)

※ポールのサイズや天井の角度により、寸法は異なりますので、取付ける前に実際にポールを動かし、周辺に当たらないことを確認してからお取付けください。

※15°までの傾斜天井に取付けできます。

	水平天井		傾斜天井	
SPO-S ポール	330mm	330mm	SPO-S ポール	500mm
SPOL-S ポール	400mm	400mm	SPOL-S ポール	600mm



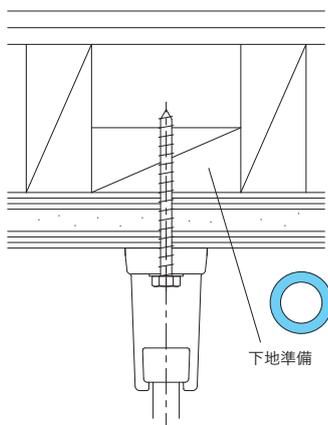
2.取付方法について

【コンクリートの場合】

- 市販のM6オールアンカー(全長45mm、ネジ長さ15mm)をご使用ください。

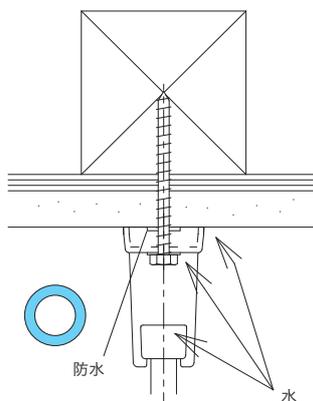
物干金物の取付けについてのご注意

取付場所・位置



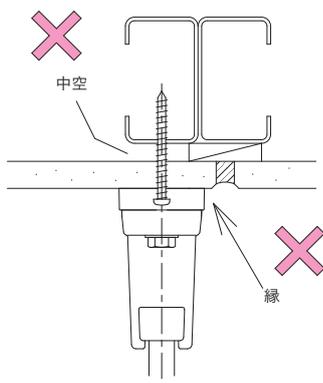
物干金物の取付場所や位置（高さなど）については図面指定があればそれに従い、無い場合はお施主様との打ち合わせにより決定してください。構造や取付方法によっては、その場所に下地材を前もって準備しておく必要があります。

防水処置



取付ネジ部から浸水があると、柱の腐食にまで進行する恐れがあります。外壁材などに下穴をあけたら穴やその周辺に防水シール材を充填し、浸水のないようにしてください。物干金物の外周部にシーリングをした場合も、取付ネジ部や金物構造の隙間から浸水がありますので、必ず穴をあけた部分の防水処置をしてください。

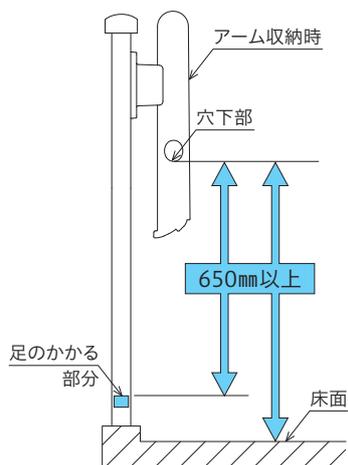
取付部の強度



使用するネジなどが十分に効くことだけでなく、その他の影響にもご注意ください。

- サイディング材の裏に中空部がある場合、その奥の柱にコーチスクリューなどを効かせようとする外壁材が破損する場合があります。
- 外壁材の縁から近い所に穴あけ・ネジ締めなどを行った場合も、ひびが入ってから破損浸水の恐れがあります。

安全への配慮



ベランダ手すり（腰壁）側に物干金物を取付ける場合、物干金物本体や収納した竿などが足掛かりになり、転落事故につながる恐れがあります。したがって物干金物を取付ける場合は、転落事故を防止するため、アーム収納時の穴下部が「足のかかる部分」にならないように極力高い位置に取付けてください。法律や各種基準では「足のかかる部分」までを650mmとしていますが、安全のため、800mm以上をおすすめします。

ネジの長さ

壁材が厚く、取付面から下地材（ネジが有効に効く部分）までが遠い場合は、それに見合った長さのネジをご用意いただく必要があります。

足掛かり：

床面からの高さが650mm以下で幼児が足をかけて上る危険性のある部分で、他の部分につかまることなく自立できる構造のものをいいます。

足のかかる部分：

床面からの高さが650mm以下の部分で幼児が他の部分につかまりながら上る危険性のある部分をいいます。